

海洋生物シンポジウム2024

主催：日本海洋学会海洋生物学研究会 共催：日本プランクトン学会・日本水産海洋学会

日時 | 2024年 3月 14日 (木) 9時～

場所 | 東京海洋大学白鷹館 1階講義室 / オンライン開催 (Zoom使用)

プログラム

■ 海洋生物学研究会会長挨拶 近藤 能子

■ 日本海洋学会会長挨拶 江淵 直人

■ 基調講演

時間	発表者	演題
9:10-9:40	栗原 晴子	気候変動下におけるサンゴ礁生態系
9:40-10:10	渡 健介	海洋観測の自動化、省力化を目指して

■ 一般講演

※下線はオンライン発表

座長	時間	発表者	学生	演題
田所和明	10:20	大矢 彩音	✓	太平洋北西部沖合表層における冬季の仔稚魚の分布様式
	10:35	伊藤 聖	✓	マイワシ対馬暖流系群の不漁年当歳魚時における成長と回遊に関する研究
	10:50	寒田 倫子	✓	黒潮沿岸域におけるマアジ稚魚の出現様式の変動
	11:05	須田 大朔	✓	耳石酸素同位体比を用いて推定されたサンマの分布海域と成長率の関係
山田雄一郎	11:20	原田 崇希	✓	南大洋インド洋セクター-Vincennes湾沖における <i>Bathylagus antarcticus</i> (ソコイワシ科)仔魚の食性
	11:35	石田 廉	✓	親潮域に優占する <i>Neocalanus</i> 属カイアシ類2種の表層出現に環境要因が与える影響
	11:50	川野 歩	✓	パラカラヌス科カイアシ類の産卵生態の海域間比較
	12:05	船木 千帆	✓	混合栄養性無殻繊毛虫が北太平洋亜寒帯HNLC海域生態系に果たす役割

12:20～13:30 昼休憩

座長	時間	発表者	学生	演題
渡辺剛	13:30	<u>Dave Arthur</u> <u>R. Robledo</u>	✓	<u>Transactivation potencies of killer whale (<i>Orcinus orca</i>) estrogen receptor alpha (ERα) by DDTs: In vitro and in silico approaches</u>
	13:45	ライラ 笑太	✓	宮城県志津川湾での海洋酸性化・貧酸素化発生に対する養殖由来有機物の寄与推定
	14:00	藤村 泰成	✓	人工有機高分子の溶出液が海産珪藻類に与える影響
	14:15	安平 光希	✓	東京湾における <i>Thalassiosira</i> 属珪藻の季節変動

榎本めぐみ	14:30	宮園 健太郎	✓	日本近海表層のプラスチックごみの付着生物相の解明
	14:45	渡辺 剛		北太平洋亜熱帯外洋域に分布するウナギ目葉形仔魚の消化管内容物の形態観察
	15:00	仲村 康秀		<u>プランクトンに対するDNAメタバーコーディングを用いた古環境の推定</u>
	15:15	鈴木 光次		北太平洋表層に生息する単細胞性窒素固定ラン藻グループBの地理的および季節的分布パターンの特徴

15:30~15:45 休憩

鈴木光次	15:45	西川 はつみ		亜熱帯モード水が海洋表層新生産へ与える影響
	16:00	岡 英太郎		新学術Hotspot2による黒潮再循環域での生物地球化学フロート観測
	16:15	石井 雅男		黒潮再循環域の表層と亜表層における全炭酸濃度と酸素濃度の季節変化
	16:30	小杉 如央		BGCフロートを利用した北西太平洋域の溶存酸素観測と大気海洋間酸素フラックス定量

西川はつみ	16:45	高橋 一生		カイアシ類は窒素固定活性が高い海域でより多くの窒素を排泄する
	17:00	榎本 めぐみ		安定同位体比を用いたマアジ対馬暖流系群の構造評価
	17:15	山田 雄一郎		相模湾北西岸におけるヤムシ類の群集組成と鉛直分布の季節変化
	17:30	高山 佳樹		高個体密度環境に対する海産カイアシ類 <i>Tigriopus japonicus</i> の応答

17:45~ 閉会式・学生優秀発表賞表彰